

集会アピール

本日、私たちは、連合「安心と信頼の医療と介護2015中央集会」を開催し、医療と介護をめぐる実態や、「地域包括ケアシステム」の構築に向けた課題について、全国から集まった仲間とともに、活発な意見交換を行いました。

今年、医療提供体制と介護保険制度の大きな制度改革が、実行に移されました。誰もが安心して地域で暮らし続けるためには、医療と介護サービスが、切れ目なく提供される体制の確保が必要です。

目標とされる2025年まで、残された時間は決して長くありません。本集会で、全体会では、「大介護時代」を乗り越えるために、私たち自身も、それぞれの地域にとって相応しい「地域包括ケアシステム」とは何なのか、話し合っていくことが必要であることを確認しました。そして、医療と介護サービスの提供においては、患者や利用者一人ひとりの暮らしを思い抱きながら、医療と介護の相互理解をいっそう深めていく必要性を認識しました。

また分科会では、制度改革の動きを把握するとともに、医療と介護それぞれの職場で抱える悩みや課題を共有し、どのような取り組みができるのか、意見交換を行いました。言うまでもなく、提供体制を支えているのは労働者です。患者や利用者が安心してサービスを受けられるようにするためにも、勤務環境や処遇の改善を勝ち取り、医療と介護で働くすべての人が、安心してサービスを提供できる職場づくりを進めることが不可欠です。

そのためには、労働組合として職場での取り組みを強めるとともに、私たち労働組合の仲間を一人でも多く増やし、職場や地域の声を結集し、医療・介護の実態を広く国民に訴え、処遇改善や政策実現の力にしていけることが必要です。そして、連合がめざす「働くことを軸とする安心社会」、「1000万連合」の実現をめざし、本集会をきっかけに、一人ひとりが行動していきましょう。

2015年5月23日

連合「安心と信頼の医療と介護」2015中央集会